



国民の森林・国有林



第100回

九州林政連絡協議会を開催 関係機関の連携強化を確認

11月16日・17日に福岡県において「九州林政連絡協議会」を開き、林野庁（柳田真一郎治山課長）、九州各県、関係機関、九州森林管理局、福岡森林管理署から35人が出席しました。
この協議会は、九州地域における森林・林業・木材産業の振興に向けた民有林と国有林の連携強化を目的として、1956年に設置され、毎年開いているものです。

九州林政連絡協議会の様子

冒頭のあいさつで、協議会の会長である洲上和之局長から「木材の流通は県域を越えた広域的な動きであることから、行政も県域を越えて連携していくことが重要。九州からの森林・林業の再生に向けて、関係機関による課題の共有、課題解決に向けて取り組みを強化していきたい」と協力を呼びかけました。

会議では、人材育成の強化に向けた林業大学の創設の検討（福岡県）



外国人宿泊施設で説明を受ける参加者

活発な議論が行われました。
また、林野庁に対する政策提案も行われ、「各種要望に対する予算要求について取り組みを進めていく」との回答がありました。
なお、報告事項として、大分県と熊本県から、林業事業体の経営安定化に向けた事業予定量の公表の取り組みについて報告があり、九州森林管理局からは各県連携した取り組みを求めるとともに、他の各県からも実施に向け検討を進めていくとの発言がありました。

二日目は参加者による現地視察が行われ、公共建築物への木材利用の取り組みである九州大学の外国人宿泊施設「伊都ゲストハウス」（福岡市西区）と、地域の間伐を促進する取り組みである木の駅「伊都山櫛」（糸島市）において、視察を行いました。
二日間を通して、各県、各機関において、それぞれの取り組みをより活発なものとしていくことと、引き続き連携を強化していくことを確認し、全日程を終了しました。
なお、来年度は沖縄県での開催を予定しています。
（担当 企画調整課）



地域の間伐を促進する施設を見学する参加者

平成27年度

国有林野所在市町村長有志連絡協議会を開催 公共建築物における木材利用など発言

11月26日に熊本市において、国有林が所在する各県の代表市町村長による「国有林野所在市町村長有志連絡協議会」を開きました。

冒頭、洲上和之局長から「市町村の森林・林業は、その地域資源を地域で活用することで、雇用を生み出すことができ、地方創生の取り組みのひとつにもなり得るもの。市町村との連携を一層強化し、課題を一緒に解決してまいりたい」とのあいさつがありました。

また、林野庁から出席した竹



国有林野所在市町村長有志連絡協議会の様子



発言される市町村長

花祐治福利厚生室長、岡井芳樹林業労働対策室長から、国有林野事業の主要な取り組み、平成28年度予算概算要求の状況などについて説明が行われました。続けて、九州森林管理局からシ力被害対策や森林総合監理士の活用、公共建築物の木造化について情報提供を行いました。その後、代表の市町村長から、各県ブロックで開催された有志協議会の報告と林野庁の取り組み

みに対する発言をいただきました。

市町村からは主にシカ・

イノシシ被害

対策の強化、

公共建築物に

おける木材利

用の支援などの要望が出され、

各種取り組みを強化するとともに、

予算要求についても取り組みを進めていくことを回答しました。

最後に、中山浩次業務管理官より、林野庁九州森林管理局として、地域の要望や課題を受け止め、今後ともしっかりと取り組んでいくと発言があり、会議を閉会しました。

(担当II企画調整課)



市町村長の要望に回答する局長

九州森林管理局では、九州フォレスト等連絡協議会との共催により年11月18日・19日の両日にフォレスト等活動推進会議を開きました。

本会議は、九州管内のフォレストを対象に、地域で活動する中で新たな課題への対応や知識・技術力向上のためのフォローアップ(CPD(継続専門教育)の一環)を図ることを目的に毎年開かれています。今回は九州各県のフォレストのほか木材、建築業界等からの参加者も含め約200人が参加しました。

会議1日目は、特別講演として(株)自然産業研究所の田村典江氏が「日本型フォレストの現状〜6年間を振り返って〜」と題し、フォレスト活動の課題や今後の展望などについて、また、山佐木材株式会社の佐々木幸久氏が「CLTなどの新技術 こんなことも木造で出来る〜木材需要拡大で森林・林業を守る〜」と題し、国産材の新たな需要が期待されるCLTの動向や可能性、今後の展開などについて講演を行いました。

2日目は、各県で取り組まれている森林整備の団地化やフォレスト活動などに関するトピックス的な課題について情報提供を行い、活発な意見交換が行われました。

参加者からは、フォレストとして現場での指導や課題の解決、合意形成の参考になったとの感想が寄せられました。また、セミナー終了後に「九州フォレスト等連絡協議会」が行われ、各機関における取り組み状況の報告や今後の活動方針などについて意見交換が行われました。

(担当II技術指導課)

フォレスト等活動推進会議を開催 九州各県のフォレストなど約200人が参加



特別講演に集まった参加者

企業と共同でグリーン活動

【宮崎森林管理署】当署では、国有林のクリーン活動の取り組みとして、例年、宮崎県、企業ボランティアの皆さんと共同で、国有林内のゴミ拾いを行っています。

今回は、参加者44人で宮崎市田野町内の県道に面した国有林内を清掃しました。約2時間の作業で収集したゴミは、空き缶



クリーン活動に参加した皆さん

ペットボトルなど、2ストロップク1台、軽トラック1台にも上りました。

当該地は交通量が多く、この活動は県道を通行するドライバーへ効果的にPRできました。

緑の少年団に森林学習

【長崎森林管理署】当署では、NPO法人奥雲仙の自然を守る会からの依頼を受け、島原森林事務所管内の遊々の森において、

多比良小学校緑の少年団8人を対象に「森林学習」を行いました。

当日は、天候にも恵まれ、遊々の森の看板製作や鋸による丸太切り、紙芝居などの体験活動に児童らは、笑顔いっぱい楽しんでみながら、取り組んでいました。最後に、子どもたちから、「これからは自然を、もっと大切にしていきたい」との声があり、自然に興味を持つ、良いきっかけになりました。



木材を使った看板を制作する子どもたち



今年度、国有林モニターをさせていただくことになりました。九州森林管理局の皆様には、厚くお礼申し上げます。

私は20年近く北九州市に住んでいます。北九州市を代表する観光名所である「菅生」(すが



田中 伸行さん

お)の滝」が国有林内にあることを知りませんでした。

昨年8月豪雨による広島市の土砂災害や昨年9月の御嶽山噴火等の自然災害が各地で発生し、治山事業の重要性はますます高まっています。

そこで、森林林業の仕事に携わったこととはありませんが、より身近な存在として国有林を感じることができればと考え、北九州市ホームページ「国有林モニター」の募集について」の記事を見て応募しました。

国有林と九州森林管理局の皆様へ感謝します

定期的にご送付いただき国有林

ました。

に関する資料を拝見することで、「綾の照葉樹林プロジェクト(綾プロ)」をはじめ、具体的な取り組みを知ることができ、今年10月に宮崎県綾町で開催された国有林モニター会議に参加させていただきました。

「綾の照葉樹林プロジェクト」

まず、宮崎森林管理署長崎野さんから綾プロの説明があり、綾プロの目的と協働体制について理解できました。大変分かりやすく説明していただきありがとうございました。

次に、照葉樹林の現地を視察しました。綾プロ10年の成果を、

今年も5月の屋久島町の口永良部島・新岳噴火や9月の阿蘇山中岳噴火等の自然災害が発生しています。今後、引き続き防災・減災に努めるとともに、綾ユネスコエコパークのよ

うな自然との共生を目指す取り組みを知ること、さらに身近な存在として国有林を感じ、これらの取り組みを家族や友人にPRしたいと考えています。

写真だけではなく、実際に現場で見ることができ貴重な体験となりました。

今回の国有林モニター会議について、九州森林管理局企画調整課国有林モニター担当の皆様(福岡県北九州市在住)

第11回
「森のアートギャラリー」表彰式・除幕式
入賞の中学校生徒ら51人が出席

11月15日、九州森林管理局において、「第11回森林（もり）のアートギャラリー」の表彰式ならびに除幕式が行われ、制作にあたった生徒達のほか指導した先生や保護者など51人の出席がありました。

今年のテーマは「山の恩恵」で、来年より8月11日が『山の日』として、国民の祝日に制定されます。山の日の意義は『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』とされており、山



入賞した中学校の生徒の皆さん

の恩恵を広く市民に普及するため、下絵を市内の中学生を対象に募集しました。

9校から応募があり、下絵審査で選考された6作品について8月からアートパネル（コンパネ1・4枚×4・5枚）の制作を依頼。各校の完成したアートパネル作品から、最優秀賞1点、優秀賞5点を実施団体である日本森林林業振興会と役員で選考しました。

最優秀賞を九州森林管理局の正門右壁、優秀賞を東側ブロック塀に設置しました。

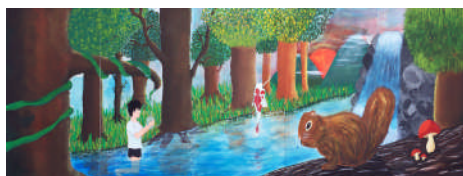
入賞した6校の表彰後、生徒らにより全作品の除幕を行ったところ、生徒や先生、保護者から歓声が沸き上がりました。

また、これまで展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域から好評を博しており、今回展示した作品も『山の日』制定の意義と合わせ、自然や森林について考えてもらうきっかけになる事を期待し、今後2年間展示することとしています。

なお、今回の表彰作品は次のとおりです

【最優秀賞】

「森林がつなぐ命」
 熊本市立 清水中学校
 美術部2年生



「森林がつなぐ命」

【優秀賞】

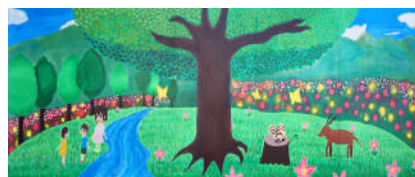
「飛べ、森から生まれたシャボン玉」
 熊本市立 江南中学校
 美術部1年生



「飛べ、森林から生まれたシャボン玉」

【優秀賞】

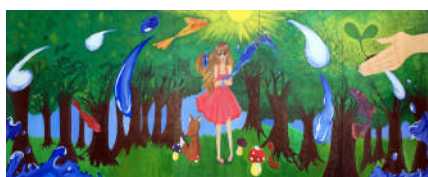
「山からの恵み」
 熊本市立 託麻中学校
 美術部1年生



「山からの恵み」

【優秀賞】

「気がつけば、いつも支えてくれている」
 熊大教育学部附属中学校
 美術部1・2年生

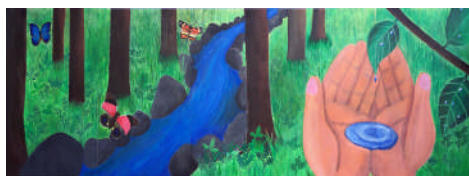


「気がつけば、いつも支えてくれている」

(担当)技術普及課

【優秀賞】

「自然の恵み」
 熊本市立 楠中学校
 美術部1年生



「自然の恵み」

【優秀賞】

「森に囲まれた私たち」
 熊本市立 三和中学校
 美術部2年生



「森に囲まれた私たち」

第5回

西表島森林生態系 保全管理委員会を開催

「第5回西表島森林生態系保全管理委員会」を11月9日、石垣市（大濱信泉記念館）において開きました。当委員会は学識経験者や地元関係者らで構成されており、2011年度から、4回開いています。

今回で第5回目となる委員会では、主な議題として、事務局より森林生態系保護地域の保全管理計画の最終とりまとめ（案）を示し、議論を行いました。



委員会で意見を交わしている様子

また、その他の議題として、西表森林生態系保全センターで行っている各種調査の報告や他



意見を述べる芝正己座長

地域のエコツーリズムの取組み事例の情報提供などを行いました。

委員からは、最終とりまとめ（案）については、使用する用語や掲載する生物種についての指摘などの意見がありました。

また、エコツーリズムについては、「今後、西表島が世界遺産に登録された場合に、観光客が増えて、さまざまな問題が生じるおそれがあるので、しっかりとルール作りをしていく必要があるのではないか」といった意見がありました。

今後は、委員などからの意見や助言を整理し、本年度中に最終とりまとめを行い、保全管理計画を策定することにしていきます。

（担当：計画課）

消防訓練を実施

「無防備な、心に火災が かくれんぼ」、今年の全国統一防火標語のもと、11月9日から15日までの一週間、秋の全国火災予防運動が行われました。

九州森林管理局では、空気が乾燥し火災が発生しやすくなった時季を迎えたことから、火災予防の意識を高めるため、局庁舎及び駐車場敷において消防訓練を行いました。また、地震に備えてシェイクアウト訓練も併せて行いました。

消防訓練は、熊本市西消防署池田庁舎にご協力をいただきながら、火災発生時の通報や初期



消火器で訓練をする職員

消火、避難誘導などの手順を本番さながらに実施しました。その後、消火器を使った初期消火の訓練も体験しました。

消防署からは、万一火災の時は、火災発生を大声で知らせること。消火器による消火では、燃えている場所を確認し消火すること。災害対策では、地域の繋がりが大切であり、「備えあれば憂いなし」のことわざとおり、平日頃から、いざというときの準備をしておくことなど、わかっているようで忘れがちな要点を指導いただきました。

最後に自衛消防本部長の堂本整総務企画部長から、「こうした訓練の積み重ねが、火災時等における迅速な行動、避難に繋がることになる」との挨拶がありました。

この訓練をとおして、備えることの大切さを再確認した一日となりました。

（担当：経理課）

2回にわたる森林教室

【鹿児島森林管理署】知覧小学校の5年生46人を対象に、2回にわたって、森林教室を開きました。

1回目は当署の福筒国有林内

で、林内の樹種名当てクイズと問伐の体験林業を行いました。子ども達は林内を散策しながら、ヒントを頼りに樹木名を次々と当てたり、初めての木を切る体験に四苦八苦しながらも、木が倒れるたびに大きな歓声をあげていました。

2回目は、小学校の多目的ホールで、森林の働きについて学んだり、草木名当てクイズを行いました。授業で環境や森林について学習していることから、子ども達も真剣なまなざしで聞き入っていました。また、クイズでは正解するたびに大きな声で喜び合うなど、楽しみながら森林について学べて有意義な時間を過ごせたようでした。



問伐を体験する児童

森山農林水産大臣が 雲仙普賢岳の治山事業地を視察

(九州森林管理局、長崎森林管理署)・長崎県連携による復旧

11月3日、森山裕農林水産大臣が洲上和之九州森林管理局長の案内で、長崎署管内の雲仙普賢岳における治山事業地を視察されました。

この日の午後、諫早市でのご公務を終えられた森山大臣は、バスで雲仙普賢岳の治山事業地に向かわれました。

1990年11月に発生した雲仙普賢岳噴火災害の当時の様子や治山事業の映像を視聴され、洲上局長から詳しい被害状況やこれまでの復旧工事に関する説明をお聞きになりました。

大臣からは、国内史上最大規模の航空緑化工の成果や今後の対応、治山ダムによる荒廃溪流の整備、民国連携による治山事業などに関する質問がありました。

また、移動中、ほぼ全域が国有林である島原市眉山の6溪地区では、1993年8月に発生した土石流による下流人家への被害状況についての説明を受けられ、大型治山ダム建設による復旧状況を車窓より視察されました。



森山大臣に説明する洲上局長

視察地となったおしが谷展望園地では、洲上局長より、1998年ぶりに噴火活動を再開した雲仙普賢岳の概要、火砕流・土石流災害、火山性ガスによる森林被害と復旧の状況、国

治山対策などについてパネルを使った説明を受けられました。

森山大臣からは、「雲仙普賢岳は公共事業の重要性がわかる最たる場所だ。ここでの治山事業の経験が全国にも普及していくだろう」と、雲仙の復興のために関係機関が連携しながら着実に成果をあげていることに対して高く評価をされ、局署職員に対する激励とともに今後も長崎県と連携して治山事業に取り組むよう述べられました。

(担当：治山課)

JICA研修生を受入れ

【西表森林生態系保全センター】国際協力機構（JICA）による集団研修を受け入れ、研修生には11カ国14人が参加しました。

この研修は、「住民参加による多様な森林保全」を目的としており、西表島の亜熱帯林の保全状況や、地域住民の森林への関わりなどについて、研修を行いました。

講義では、沖縄県の森林の概況や西表島の森林・マングローブ林などについて説明したこと



サキシマスオウノキの前で記念撮影

に対し、研修生は真剣な表情で、熱心に聞き入っていました。特にマングローブ林については、樹齢などのさまざまな質問がありました。

また、現地視察ではサキシマスオウノキなどの保全状況やマングローブ林の生育状況を視察しました。特に、海岸保安林の造成試験の箇所では、活発な意見交換ができました。

今後、この西表での研修が活動に寄与できることを期待しています。

遊歩道設置を指導

【大分森林管理署】食とみどりの水を守る大分県労農市民会議は、由布市内の国有林に分収造林契約でスギやサクラなどの苗木を植栽・造成し、「平和と環境の

森」とした活動に取り組んでいます。

林内には遊歩道を設置していますが、20年が経過し木製の階段が腐朽していることから、市民会議では、子供から大人まで50人を越えるボランティアが集い、ヒノキの階段設置に汗を流しました。

戸惑いながらの活動開始となりましたが、当署職員の指導もあり、時間が経つにつれ慣れて、次々に階段を設置し、予定よりも早く終了しました。昼食では、現地で作った豚汁に舌鼓を打つなど山に親しむ有意義な日を過ごしていました。

現地は、間伐の必要な時期を迎えており、市民会議では、今後の取り扱いを検討することとしています。



階段設置のため杭打ちをする子ども

沖林野庁次長が訓示 今動かなければ、未来は変えられない

11月4日、沖修司林野庁次長が、森山裕農林水産大臣の随行を終えられた後、来局され、局大会議室において職員に対し訓示されました。

訓示では、「国有林野事業が一般会計となり3年、皆さん方の努力により、しっかりと前へ進んでいます。」

今、林野庁では、林業の成長産業化を大きなテーマとして進んでおり、これを支えるのが、一つは新たな木材需要の拡大、もう一つはそれを支えるための安定供給です。しかし、これだけでは動きません。木材が循環

していくためには、材価の確保も重要な課題です。

そういういろいろな課題がありますが、最初の新たな需要の拡大、これはCLT、不燃木材やバイオマスの利用、こうした新しい動きをとらえきちんと前へ進めていくこと、それから安定供給は、九州局で取り組まれている、システム販売などにより、木材を需要のあるところに安定供給していくことだと思っています。

九州局はその先頭を走っていますが、先頭を走るのは非常に大変なことで、自分たちで新しい事を開拓し、新しい課題を見つけ、新しい解決方法を見いだしていかなければなりません。それを10年以上九州局では取り組んできていると思っています。この日本の森林・林業・木材産業を前へ進めるため、今後是非がんばっていただきたい。

もう一つ話しておきたいのは、先般見ていたラグビーの試合の中で、「過去・現在・未来の中で変えられるのは未来しかない、しかし、現在それに取り



訓示する沖次長

組まなければ未来は変えられない、だから今動かなければならない。」という話がありました。林業というのは、ご存じのとおり先の長い話です。しかし、今動かなければ未来は変えられない。それを担うのが九州局の仕事だと思っています。ぜひ、全国をリードする立場として、引き続き業務に取り組んで頂きたい。」と述べられました。

(担当：総務課)

「森の名手・名人」認定授与式

【都城支署】当支署で平成27年度「森の名手・名人」の認定証授与式が行われました。認定者である小倉哲朗様は、30年間にわたって、弓師として従事し、国の伝統的工芸品「都城大弓」



認定証授与式の様子

を制作するにあたって、竹林などから切り出した竹や櫨などの材料の選別、製造技術の研さんに励み、国、県の伝統工芸士に認定されています。

また、地域の風土に根ざした伝統的工芸品を普及するために都城弓まつり全国弓道大会や小学校に出向き児童に体験イベントを開催するなど、社会貢献を行っています。

認定証授与式では、関係団体等も出席し、主催者である公益社団法人宮崎県緑化推進機構の常務理事や宮崎森林管理署都城支署長が祝辞を述べました。

「森の名手・名人」の認定は「もりのくに・日本運動」のリーディングプロジェクトとして、2002年以降、森に関わる優れた技を極め、他の模範となっている達人を選定しており、公益社団法人国土緑化推進機構が主体となって行われています。

当支署としても、今後このような取り組みに情報提供を行うなど、協力を行って参りたいと考えます。

民・国連携でクリーン活動

【宮崎南部森林管理署】日南市北郷町の国有林・民有林において、当署と「北郷町まちづくり

協議会」との共同でクリーン活動を行いました。

当日は、主催者をはじめ、日南市、関係事業体、付近の山林所有者などの協力の下、総勢約60人が参加し、市道沿いに不法投棄された冷蔵庫などの大型家電ゴミや家庭ゴミ、農業用ピニールなど、重機などを使い約2時間の作業でトラック5台分にのびりました。

当日は、官民一体となった取り組みとして、テレビ局が取材に訪れ、石神智生署長は不法投棄の防止の呼びかけを行いました。

今回のクリーン活動が、不法投棄の防止啓発に繋がればと思います。



多大なゴミ収集をする参加者

2015年を振り返って

いろいろな出来事がありました

国有林野事業が一般会計となり3年目を迎えました。「林業の成長産業化」を目指し取り組んできた主な出来事を「広報九州」の中から振り返ってみました。

フォロアアップセミナー160人

1月15日・16日の2日間、局大會議室において、フォレスト等活動フォロアアップセミナーを開きました。

セミナーには、九州各県のフォレストや一般聴講者も含め約160人が参加、各地域での新たな課題への対応や、知識・技術力向上を図りました。

また、セミナー終了後には「九州フォレスト等連絡協議



フォレスト等連絡協議会参加の皆さん

会」が行われ、各機関の取り組み状況の報告、今後の活動方針などについて、意見交換が行われました。

イリオモテヤママネコシンポジウム開催

2月15日、沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センター、琉球大学、竹富町の共催で、「イリムティヌ ヤママヤー」水あふるる森のヤママネコ」公開シンポジウムを西表島で開きました。

シンポジウムでは、イリオモテヤママネコ保護に向けた国有林の取り組みの紹介や、西表島の森林と生態系について関心を深めて頂くため、4人の専門家による講演などが行われました。

間伐推進コンクール表彰式

2月27日、平成26年度国有林間伐推進コンクールの表彰式を行いました。今年度は、熊本県湯前町の上

球磨共同事業体が、全国で初めて車両系誘導伐等部門において、林野庁長官賞を受賞されました。

また、九州森林管理局局長賞として、大分県大分市の有限会社大ヶ丘緑樹園、鹿児島県出水市の株式会社永田林業、宮崎県日南市の日北木材有限会社が受賞しました。



表彰された関係者の皆さん

有識者懇談会を開催

3月2日、「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、地域管理経営計画と国有林野施行実施計画の経営樹立・変更に係る有識者懇談会を開きました。

懇談会では、九州森林管理局における経営樹立・変更計画の概要や、「主伐・再造林」の考え方や取り組みについて局担当者から説明を行い、審議を行いました。

委員の方々から「再造林にあたっての苗木不足対策」などの貴重なご意見をいただき、今回の経営樹立・変更について異議なしの結論をいただきました。

重点的取組事項記者発表を行う

4月22日、平成27年度九州森林管理局重点取組事項について、一般紙及び専門紙に対し、記者発表を行いました。

会見では、冒頭、川端省三局長から、一般会計移行から3年目を迎え、国有林として、森林の公益性を重視した森林の管理を行うこと、九州は全国的に先進的な事例を多々行っている地



林政記者クラブの3社

域であり、地域の林業・木材産業に貢献できるよう事業を実施していく旨の挨拶あり、その後、各担当部長より具体の取り組みについて、説明を行いました。

治山・林道事コンクール表彰式を開催

4月8日、平成26年度治山・林道工事コンクールの表彰式を、局長室において行いました。

表彰式では、工事内容が良好で、他の模範にあたりと判断された、治山工事3社、林道工事1社に対して、局長表彰を行いました。

また、局長表彰に併せて、当局が推薦した1社が農林水産大臣賞、2社が林野庁長官賞を受賞されたことから、屋久杉の額縁を贈呈するとともに、当該工事の担当技術者並びに監督職員に対し、局長表彰を行いました。



表彰された関係者の皆さん

林野庁長官感謝状の贈呈

（多植林会・地域と一体な森林づくりの推進）

5月26日、平成26年度年度国民の森林づくり推進功労者「奈多植林会」に対し、林野庁長官感謝状の贈呈式を、局長室において行いました。

贈呈式では、奈多植林会今林久会長に対し、川端省三局長より、木製の林野庁長官感謝状が伝達贈呈されました。

「奈多植林会」におかれては、福岡市の奈多海岸において、白砂青松の維持保全、海岸松林の再生などに地域と一体となり取り組まれており、その活動が高く評価され、今回感謝状を授与されたものです。

林政記者クラブ現地視察を実施

6月5日・6日、川端省三局長の案内により、九州森林管理局林政記者クラブ現地視察を行いました。

1日目は、宮崎森林管理署管内の、主伐・再造林箇所及び海岸防災林整備箇所の現地視察を行い、活発な意見交換が行われました。

2日目は、日向市の中国木材日向工場において、工場関係者から説明を受けながら、工場の設備などを視察しました。
この視察は、取材される記者

の方たちに、森林・林業・木産業及び国有林野事業への理解を深めていただくために行っています。

国有木材供給調整検討委員会を開催

6月10日、平成27年度第1回「国有木材供給調整検討委員会」を開きました。

委員会では、各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べられ、「現状では供給調整を行うことは要しないが、梅雨明けの需要動向に注視が必要である。」との検討結果になりました。



意見を述べる委員

今井長官が職員へ訓示

6月26日から28日の3日間、今井敏林野庁長官が九州森林管理局管内を視察され、26日には、局大会議室において職員に対し訓示されました。

各県林務関係者と意見交換を行う

5月中旬から6月中旬にかけて、九州各県において、森林管理署と地域の民有林行政を担当する県庁林務関係者により、森林・林業の地域の実情・課題の共有と、その解決に向けた取り組みの加速化を図るため、意見交換会を行いました。

今後は、意見交換会で出された各種課題の解決に向けた取り組みを進めるとともに、これまでの取り組みの成果について情報発信を進めていきます。

三ツ岩林木遺伝資源保存林が林業遺産に認定

一般社団法人日本森林学会が選定作業を行っている「林業遺産」に、九州で初めて「鉄肥林業を代表する弁田材生産の歴史」が4月28日に選定され、その中で、宮崎南部森林管理署管内の「三ツ岩林木遺伝資源保存林」が、「江戸期に成立した鉄肥林業を代表する疎植林の景観を維持している林業景観」として、認定されました。

コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会を開催

7月28日・29日の2日間、宮崎県都城市で「コンテナ苗供給調整会議」および「生産技術向上検討会」を開き、九州各県の

樹苗生産組合や県林務担当者、森林総合研究所など約100人が参加しました。
調整会議では、今年度と来年度の各県苗連の出荷量を基にした供給計画について調整を行いました。

検討会では、コンテナ育苗技術の意見交換を行うとともに、苗木生産者による生産技術の紹介など関係機関から話題提供をいただきました。その後、宮崎市にある倉樹苗園の苗畑に移動し現地検討会を行いました。

第19回「森の塾」に11人

8月3日、監物台樹木園において、熊本県内の小学校教諭を対象とした「森の塾」を開校。11人が参加しました。

今回で19回目となる「森の塾」、低コスト造林の取り組みやシカ被害の現状と対策などについて説明。また、「シカと森林のカード」を使用して、森林とシカの生態について学びました。

実習では、園内を散策し植物について学んだり、木工品作りに取り組みました。

参加者からは「今後も続けてほしい」「子どもたちの指導に活かしていきたい」などの感想が寄せられました。



作成の木工品を手に記念撮影

シカ被害対策に係る意見交換会実施

7月28日、九州森林管理局において、シカ被害軽減に向けた効果的な取り組みを推進するための意見交換会を実施。本年4月に林野庁に設定されたシカ被害対策推進プロジェクトチームをはじめ九州各県の担当者、森林総合研究所、当局管内の担当者が参加しました。

はじめに、各機関からシカ被害の現状や対策などについての報告のあと、意見交換では、国が補助している交付金や森林整備事業の積極的活用、五島列島の林地荒廃対策、シャープシューティングによる捕獲の問題点と対策などについて意見が交わされました。

芦北高校生へ林業実践体験研修

8月4日、熊本県から委託を受けた水俣芦北森林組合からの依頼を受け、熊本県立芦北高校林業科2年生4人に実践体験研修を行いました。

午前中、監物台樹木園において、「シカカード」を使用して森林の植生などについて学んだ後、園内を散策し樹木の種類や構造について学びました。

午後からは、局研修室に場所を移し、迫口親保全課長が九州国有林の現状や役割、九州局の組織や取組事項などについて講話。中山浩次業務管理官からは地球温暖化対策や木材需要の動向、木質バイオマスの利用など幅広い内容の話がありました。



林業実践体験研修の生徒



木工教室で作品作りに夢中の親子ら

「夏休み親子消費者の部屋」に参加

8月5・6日の両日、熊本地方合同庁舎において「夏休み親子消費者の部屋」が開かれました。

これは、国の行政の仕事や役割など庁舎の見学などを通じ、多くの子供達に理解してもらおうことを目的に行われたもので、主催である九州農政局をはじめ7つの機関が参加しました。当局は森林・林業に関するパネル展示や木工教室などを行い理解を深めました。

3回目となる今回、来場者は490人に上りました。

山の日制定をPR

2016年から8月11日が

「山の日」に制定されました。「山の日」を1年後に控えた8月11日、九重町長者原においてプレイベント、「山の日制定記念祭 in 大分・くじゅう」が開かれました。

記念式典では歌手の芹洋子さんがくじゅうを唄った「坊がつる賛歌」を披露。

会場に設置された林野庁の展示・体験ブースでは、森林管理局、大分・大分西部森林管理署が合同でパネルを展示し国有林を紹介。また、丸太切りや虫かご作成などを実施し、国有林のPRを行いました。



坊がつる賛歌を披露

ヤクシカWGなどを開催

8月8日・9日、屋久島環境文化村センターにおいて、本年

度第1回目となる「屋久島世界遺産地域科学委員会」および科学委員会の作業部会である「ヤクシカ・ワーキンググループ会議」を開きました。

科学委員会では、①屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況について②2015年度モニタリング調査について③ヤクシカ・ワーキンググループについて④山岳部における利用の検討状況について、行政機関などからの報告後、議論が交わされました。

今後とも委員会での助言を得ながら屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を将来にわたり適正に保全・管理行くこととしていきます。

国有林モニター会議を開催

9月5日、大分県日田市外で平成27年度国有林モニター会議



意見交換するモニターの皆さん

を開き、5人のモニターが参加いただきました。

今回、間伐の事業実施箇所および製材工場で、木材の生産から加工までの流れについて視察いただきました。

モニターの皆さんからは「普段見ることのできない間伐や製材工場を視察でき有意義だった」「製材工場の機械化に驚いた」などの感想をいただきました。

綾プロ記念フォーラムを開催

9月5日、綾町高齢者研修センターにおいて「綾の森が歩んだ10年、これからの10年」と題し、記念フォーラムを開催。約190人が参加しました。

フォーラムの第1部では、崎野建輔宮崎森林管理署長が綾プロの概要および取り組みについて報告。また、綾プロと兄弟プロジェクトと言われる関東森林管理局の「赤谷プロジェクトの取り組みについて」赤谷ふれあい推進センターの藤澤将志所長の報告がありました。

第2部では、今後の綾プロのあり方やいかに地域に根ざした活動としていくのかを考えるため、「綾プロの10年」を聞き取りたい！これが言いたい！と題し、パネルディスカッションが行われました。

局長就任記者会見

8月7日付けで着任した、淵上和之局長の就任記者会見を、9月1日、局長室で実施。一般紙6社、専門紙3社が出席しました。

記者からは、CLTの普及やバイオマス発電に係る国有林の対応、主伐・再造林の取り組みなどの質問が寄せられました。

ナイストライ事業受入

9月に、熊本市立北部中学校および京陵中学校から「ナイストライ事業」一申請を受け、中学2年生の生徒9人（北部中学校4人、京陵中学校5人）の、職場体験学習を行いました。ナイストライ事業は、心身ともに成長する中学生の時期に、



広報誌の作成に取り組む生徒

さまざまな体験活動を通して、「生きる力」を育成することを目的としているものです。

生徒らは、新聞の切り抜きや樹木園内の清掃、GPSの実習や広報誌の作成などを体験しました。

森・林の技術交流発表大会を開催

10月27・28日の両日、九州森林管理局大会議室において「平成27年度森林・林業の技術交流発表大会」を開催。九州各県の森林・林業関係者や九州各県で森林・林業を学ぶ高校生、局・署の職員など延べ約250人が参加しました。

発表はそれぞれの地域や職場学校などで取り組んでいる、森林・林業再生に向けた取り組み



技術交流発表大会、延べ250人が参加

や、民国連携による流域毎の林業活性化や林業技術の向上、国民参加の森づくりによる森林整備、シカ被害対策など多岐にわたる26課題（一般の部17課題、高校生の部9課題）の発表がありました。

林政連絡協議会を開催

九州林政連絡協議会が11月16日・17日の両日、福岡市、糸島市において開催。九州各県や関係機関から35人が出席しました。

会議では、九州の森林・林業・木材産業の動向について、さまざまな角度から議論が行われ、各関係機関が互いの理解を深め、連携強化を確認する良い機会となりました。



九州林政連絡協議会の様子

農林水産大臣が現地視察

11月3日、森山農林水産大臣が、淵上局長の案内で雲仙普賢岳の治山事業地を視察されました。

森山大臣からは、「雲仙普賢岳は公共事業の重要性がわかる最たる場所だ。ここでの治山事業の経験が全国にも普及していくだろう。」と、雲仙の復興のために関係機関が連携しながら着実に成果をあげていることに對して高く評価をされ、局署職員に対する激励とともに今後も長崎県と連携して治山事業に取り組むよう述べられました。



大臣へ説明する局長

11月26日、熊本市のKKR熊本ホテルにおいて、「平成27年度

国森野所在市町村長有志連絡協議会開催



連絡協議会で挨拶する淵上局長

国森野所在市町村長有志連絡協議会」を開催しました。続いて、森林管理局から「九州森林管理局のシカ対策」「森林総合監理士による市町村への協力の推進」など九州の取組事例について説明が行われました。その後、代表の市町村長から、公共建築物における木材利用、有害鳥獣被害に対する地域での取り組みや国に対する要望などのご発言をいただきました。

最後に、地域の要望や課題を受け止め、今後ともしっかりと取り組んでいくとの考えが示され、閉会となりました。

木の選権審査会に参加

【佐賀森林管理署】県内林業技術者の育成確保と技術向上を目的に、2010年度から毎年開催されている佐賀県きこり選手権に、佐賀森林管理署も審査員として参加しており、今年で6回目を迎えました。

今年には県内の森林組合や林業事業体から16チーム48人が参加し、安全基準の遵守を基本に日頃培った伐採技術を披露しました。



丸太輪切りの様子

競技は、①伐倒、②丸太切り、③丸太輪切りリレーの順で行い、これらの総合成績上位5チームが最後の④枝払い競技で決勝戦となります。結果は太良町森林組合がV3を達成し、昨年の優

勝チームとともに来年開かれる全国大会に出場します。さらに全国大会でチャンピオンとなって世界伐木チャンピオンシップ出場を目指しています。

今後この大会を通じて佐賀県林業技術者の安全意識の高揚や林業技術の向上が図られることを期待します。

クリーン活動の果てを最

【北薩森林管理署】当署管内の第一相川国有林で、熊本林業士



化石から名前が認定された樹木で、戦前は世界には存在しないと思われていましたが、1945年に中国で発見されました。「生きた化石」と呼ばれ、メタセコイアは和名がアケボノスギとなっています。

メタセコイアは葉や枝が対生であることを確認することによって判別できます。メタセコイアは対生の部分があるので注意が必要です。

樹形が三角錐で夏は柔らかい

木協会鹿児島支部主催のクリーン活動が、17社40人と当署から8人が参加し実施されました。クリーン活動の結果、大量に捨てられていたタイヤ728本や家庭ゴミなどを回収しました。

これだけの数のタイヤを、当たり前のように捨てた人がいることは残念ですが、少しでも不法投棄が無くなりキレイな環境を保っていきけるよう、今後も民・国連携して、活動を行うこととされています。



大量に捨てられたタイヤを重機で回収

98メタセコイア(ヒノキ科)

葉、秋は赤褐色の明るい紅葉、冬は樹形が綺麗なことから庭園樹や街路の並木として利用されます。

世界で115歳と樹高が一番高いセコイアにその姿が似ていることから、メタ(変形した)セコイアと名づけられました。

樹木園の入り口東側にメタセコイアと並ぶように植えてありますので比較してみる事ができます。写真は樹木園の中央、西側、樹高は約40歳IIIの背高のつぼのメタセコイアです。



みどりの散歩路

12月を迎え、今年も残りわずかとなった▼2015年は鳥インフルエンザで始まり、口永良部島新岳・阿蘇中岳の噴火、桜島の噴火警戒、台風被害など、自然の脅威を体感させられた一年ではなかっただろうか▼そのような中、噴火により全島避難されていた、口永良部島住民の帰島が可能になるようである▼5月29日の爆発的噴火以来、屋久島などでの生活を余儀なくされていた方々には、新しい年を自宅で迎えられることは、なにより朗報となるだろう▼明るい話題でいえば、今年はラグビーが脚光を浴びていた▼ワールドカップで南アフリカに勝利した事もあるだろうが、やはり五郎丸歩選手の活躍が大きかったのではないだろうか▼奇跡と言われた勝利にも「(勝利は)必然、ラグビーに奇跡はない」と言いきるところも、猛練習を積んだからこそ言えることであろう▼自身は、今年もスポーツにとんと縁がなく、体力が目に見えて落ち、あちこちにガタが出てきた▼鬼が笑うかもしれないが、来年は体力アップに向けて動きだそう。(き)